

1. 地域の概要

(1) 地理的位置

表 地理的位置

国名及び地域	南アジア スリランカ民主社会主義共和国 西部州 ホラナ
経緯度	北緯 6 度 55 分、東経 79 度 51 分 (州都・コロンボ)

(2) 自然環境 (地形、気候、植生及び土壌等)

- ・スリランカがあるセイロン島はインド洋にあり、ベンガル湾の南西、アラビア海の南東に位置する。最高峰のピドゥルタラガラ山は 2524m に及ぶ。
- ・事例地が位置する西部州は、Am (熱帯モンスーン気候) 及び Af (熱帯雨林気候) に分類され、北東部は Aw (サバナ気候) となっている。気候は年 2 回のモンスーンの影響が強く、5 月～9 月にかけての南西モンスーンと 11 月～3 月にかけての北東モンスーンに伴い、季節に応じて降雨量が変化する。
- ・事例地のホラナは、河川下流部の平地に位置する。

(3) 社会的背景 (人口、産業、歴史等)

- ・事例地が位置する西部州は、首都であるスリジャヤワルダナプラコッテ、経済の中心地であるコロンボを抱える最も人口密度が高い州であるが、一歩都市を出れば農山漁村が広がっており、事例地もそうした農村の一つである。
- ・西部州の主要な産業は農業と繊維産業である。主要な農作物として、米、茶、ココナッツ、天然ゴムなどが生産されている。西部州を含むセイロン島の南西部では 2 回の雨季を利用して二期作が可能であり、豊富な降水量を利用した天水農業が行われている。

2. 地域の自然資源の利用・管理の実態

(1) 自然資源の利用・管理の経緯と現状

- ・スリランカ南西部の湿地帯は、古くから米の生産が盛んな地域であり、湿地生態系とよく調和した稲作が営まれてきた。
- ・伝統的な稲作は、ヨシ畑とホームガーデンが組み合わされており、これらはカゴの材料となるだけでなく、淡水魚やカエル、植物、昆虫などの生息・生育空間となっていた。

(2) 自然資源の利用・管理の問題点及び生物多様性への影響

- ・20世紀後半の「緑の革命」によって、上記のような営農類型とヨシを織る技術が途絶えてしまった。化学投入物と稲の作付面積の拡大によってヨシ畑が失われ、多くの淡水魚と植物種が生息できなくなってしまった。
- ・ヨシを原料とした敷物やカゴ、マットなどの工芸品の生産量が減少していき、数少ない女性が細々と技術を継承していたものの、市場の需要が減少し収入が得られなくなったため、工芸品の製作をあきらめていた。

(3) 上記問題点の解決に向けた地域計画等

(既往資料から把握することはできない。)

3. 取組事例の詳細

(1) 取組事例の全体像

1991年に設立された The Committee for People's Rights (CPR: 人民の権利のための委員会)は、貧困等を引き起こしていた農業に基づく伝統的社会的衰退に対応するために、持続可能な農業を回復させるための取組に着手した。

1) 取組の内容

- ・ 1999年に、CPRはヨシ及びヨシを材料とした機織りの習慣を再導入するため、“Rush and Reed Conservation and Diversification Programme”を開始した。
- ・ ヨシの再生は、水田にヨシを植えることに同意した5人×18グループで始められた。また、同時に、若年層(ほとんど女性)は、急速に減少していた伝統的なモチーフを使用した機織りの訓練を始めた。
- ・ ヨシ工芸品の販売を促進するため、工芸センターとショールームが設置され、これを目にした地域住民の間で取組が広がっていき、農業者が次々とヨシを植え始めた。また、これまで約150人が機織りの訓練を受けた。
- ・ 2003年には、ヨシ畑とホームガーデンで構成される自己持続的な「小規模土地ユニット」の再生の取組が、20人の農業者と緊密に連携して開始した。農業者は有機農業のトレーニングを受け、また、伝統的な品種の米を植えることが奨励された。彼らがリーダーとなり、このような取組を広めることが期待される。

2) 取組の実施体制

- ・ この取組は、下記の国際機関及び国内機関の協力を得て実施された。

GEF - Small Grants Programme (国際基金「地球環境ファシリティ」による小規模補助金プログラム)

The National Crafts Council (国立工芸協議会)

The Department of Agrarian Services (スリランカ共和国農業省)

The National Handicrafts Board (国立工芸品委員会)

The National Design Centre (国立デザインセンター)

Green Movement of Sri Lanka (スリラン緑の運動)

Movement for National Land and Agricultural Reform (国土と農業改革運動)

3) 取組の効果

【生物多様性の改善効果】

- ・ このプロジェクトにより、湿地生態系が回復し始めているという徴候がある。
- ・ 植物に関しては、約12種のヨシの再導入に成功し、また、天然染料の原料として伝統的に用いられていた植物が復活した。これらを含めて、750種の植物が再紹介された。
- ・ ヨシの減少の原因となっていた化学投入物に代わって、天然肥料と伝統的な害虫駆除方法が再導入

された。

- ・カエル、クモ、昆虫の増加が記録され、数種の淡水魚が戻ってくるなど、総合的な生態系の回復の徴候が見られる。

【社会経済的効果】

- ・プロジェクトによる地域住民の生計改善効果は大きく、ヨシ栽培農家は収入が毎年 50～70 ドル増加し、さらに工芸品を製作することによって 10～60 ドル以上の収入を得られるようになった。これはスリランカの平均収入を大きく上回る。
- ・「小規模土地ユニット」に取り組む農家は、毎年 30～40 ドルに相当する食糧を自給できるようになった。
- ・工芸品製作は女性に収入をもたらし、自立と意思決定への参加を可能とした。

(2) SATOYAMAイニシアティブの「5つの視点」から見た自然資源の利用・管理の詳細

本事例と5つの視点の主な関係は、下表に示すとおりである。

表 本事例と5つの視点の主な関係

5つの視点	本事例との関連
1) 環境容量・自然復元力の範囲内での利用	・稲作の拡大によって失われていたヨシの栽培面積が拡大し、また、ヨシ畑とホームガーデンで構成される自己持続的な「小規模土地ユニット」が再生された。 ・ヨシの減少の原因となっていた化学投入物に代わって、天然肥料と伝統的な害虫駆除方法再導入された。 ・上記によって、水田とヨシ畑、ホームガーデンで構成されるモザイク状の土地利用が復活し、かつての生物多様性が取り戻されている。
2) 自然資源の循環利用	
3) 地域の伝統・文化の評価	
4) 多様な主体の参加と協働	・本プロジェクトは、地元組織（CPR）、地元住民、国際機関及び国内機関のパートナーシップによって実行された。
5) 地域社会・経済への貢献	・地元住民は、ヨシ栽培、工芸品製作、「小規模土地ユニット」によって、スリランカの平均収入を大きく上回る経済的利益を得ることができた。 ・女性が工芸品製作の収入を得ることによって、自立と意思決定への参加を可能とした。

以上

参考文献等

- ・NOMINATION FOR EQUATOR PRIZE 2004 “Rush and Reed Conservation and Diversification Program”